

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりが「学び」を通じて自己肯定感を醸成し、将来の自己実現のためのスキルを身につけられるよう「基礎学力の充実と資格取得」に力を入れ、地域社会での学びを深めるとともに、実学を重視した教育活動を行うことで「地域社会に貢献できるビジネスパーソン」「超高齢化社会を支える介護・福祉分野のプロフェッショナル」を育成する。さらに、両学科の特性を生かして、地域社会の課題に取り組む課題探究型学習を通じて少子高齢化社会に対応した持続可能な社会の創り手を育む教育の推進をめざす。

- (1) 高校生活のあらゆる機会を通じて教養を深め、豊かな情操を養う。
- (2) 学習の基礎・基本を大切にし専門知識を身につけ資格の取得をめざすとともに、マナー教育を徹底し人間尊重の精神と態度を養う。
- (3) 自己の進路への自覚を深め、目標に向かい自主的に努力する態度を養い、生涯学習の観点から自己教育力を身につける。

2 中期的目標

R4 生徒の真の学力を育む淀翔プロジェクト～資格取得だけに留まらない持続可能な社会の創り手をめざして～

1. 資格取得率
 - (1) 商業科では卒業時に、流通科学コース 全商ビジネス計算実務検定1級、会計科学コース 全商簿記検定1級、情報科学コース 全商情報処理検定(ビジネス情報部門)1級の取得率をそれぞれ20%以上、2級の取得率をそれぞれ70%以上を目標とする。
 - (2) 福祉ボランティア科では介護職員初任者研修100%、国家資格介護福祉士取得率を95%以上とする。
2. 心豊かな職業観を育む体験学習
 - (1) 生徒アンケートによる「販売実習(介護実習)を通じて、ビジネス(介護福祉)に関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率を70%以上をめざす。
3. 持続可能な社会の創り手を育む教育(ESD)
 - (1) 連携団体や地域企業、行政などのステークホルダーによる「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率を70%以上をめざす。
4. 3年間の研究成果について他校への発信・普及
 - (1) 公開授業・実践報告会の実施、HPでの発信および他校への指導助言

1. 教育活動の充実を図り、少子高齢化社会に対応した持続可能な社会の創り手を育む教育(ESD)の推進

- (1) 職業教育の充実を通じて、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた人材の育成
 - ア 会計科学・情報科学・流通科学・コミュニケーション科学の各コースに応じた専門的な知識、技術の習得をはかり、各種検定の資格取得をめざす。
※ 目標：卒業時に流通科学コースでは全商ビジネス計算実務検定1級取得率25%以上(R1:23.0%、R2:22.0%、R3:60.4%) 会計科学コースでは全商簿記検定1級取得率20%以上(R1:47.2%、R2:30.8%、R3:13.0%)、情報科学コースでは全商情報処理検定(ビジネス情報部門)1級取得率20%以上(R1:8%、R2:8%、R3:10.0%)をめざす。
 - イ 「介護を必要とする幅広い利用者に対する基本を踏まえたより専門性の高い介護を提供できる能力」を身につけるために、国家資格である介護福祉士の資格取得をめざす。
※ 目標：資格取得率 介護職員初任者研修 100%を維持する。(R1:100%、R2:100%、R3:100%) 国家資格介護福祉士 95%以上をめざす。(R1:100%、R2:97.3%、R3:100%)
 - ウ ICTを活用した「主体的な学び」を引き出す指導方法の開発をめざす。
 - エ 販売実習や介護実習での体験的な学習を通じて、働くことの本質に気づくとともに心豊かな職業観を身につける。
※ 目標：生徒アンケートによる「販売実習(介護実習)を通じて、ビジネス(介護福祉)に関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率を令和7年度までに70%以上をめざす。(R4年度60%、R5年度65%、R6年度70%以上)(新規)
 - (2) ICTを効果的に活用して課題探究型学習に取り組み、未来を担う人材を育む教育
 - ※ 目標：連携団体や地域企業、行政などのステークホルダー(外部評価)による「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率を令和7年度までに70%以上をめざす。(新規)
 - ア 大規模販売実習である「淀翔モール」を通じてソーシャル・アントレプレナー(社会起業家)の育成をめざす。
 - イ 健康と福祉の視点から、いつまでも住み続けられるまちづくりに向けた創り手の育成をめざす。
 - ウ ICTを活用して、学校が「ビジネス社会とつながる」と「地域福祉とつながる」ための教育実践に取り組む。
 - (3) ビジネスや福祉に関する特色ある教育活動を情報発信することで、小学生・中学生を含む地域の方々へ学校への理解や関心を深めてもらい「地域に愛される淀商」をめざす。
 - ア 体験入学や学校説明会を充実させるとともに、ホームページを含めたさまざまな方法を活用し、学校情報の発信を行う。
 - イ 高齢者施設へ出向いての介護実習や「with コロナ」に対応した新たな地域福祉活動やボランティア活動を通じて地域密着型の学校をめざす。
2. 確かな学力の育成と取り組み
- (1) 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基礎基本となる資質や能力の定着をはかるため、「わかる授業」「魅力ある授業」の実現をめざす。
※ 目標：授業アンケート「(項目8)興味関心」の肯定的回答率について毎年70%以上(R1:68.6%、R2:69.6%、R3:70.9%)を維持する。
ア 授業改善のための指針として常にPDCAサイクルを活用することで、計画、実行、評価、改善を繰り返し行い「わかる授業」「魅力ある授業」の構築をめざす。
イ 教員自らが研究や研修活動を推進することで、授業の質の向上をめざす。
ウ 1人1台端末導入により、ICT機器を使用した効果的な授業実践に取り組む。
エ 授業アンケート結果に対して分析を行うことで、問題点を明確にして授業改善に取り組む。
 - (2) 主体的・対話的で深い学びを実践し主体性を養うとともに、現代的な諸課題に対して求められる資質や能力、知識や技術を教科横断的に実践し育成する。
※ 目標：授業アンケート「(項目2)知識技能」の肯定的回答率について毎年70%以上(R1:71.7%、R2:71.9%、R3:73.4%)を維持する。
ア あらゆる教育活動を通して主体的、対話的な教育活動を組み入れることで思考力、判断力、表現力を身につけ、積極的に自己のキャリア蓄積にいかす。
イ 観点別評価により学習の過程や成果を評価し指導の改善や学習意欲の向上をはかり、生徒の資質、能力の育成にいかす。
ウ 各教科から自宅での課題を掲出することで生徒の学習への意識を高め、自学自習の習慣の確立をめざす。
 - (3) 生徒一人ひとりの希望進路の実現に向けて自ら目標を立て挑戦し続ける態度を養い、その過程で培われる自分を取り巻くすべての人に感謝する気持ちや思いやり等、「生きていく」うえで必要な人間性を養う。
※ 目標：就職については、一次内定率70%以上(R1:72.3%、R2:70.2%、R3:67.5%)、最終的には就職希望者100%(R1:100%、R2:100%、R3:100%)の内定獲得を実現する。
進学希望者については進学最終合格率100%(R1:100%、R2:100%、R3:100%)をめざす。
ア 進路希望調査をもとに個別面談を実施し希望進路の把握に努めるとともに、保護者説明会を定期的に開催し家庭の協力体制を得ながら必要な支援を適切に行う。
イ 就職希望者については応募前職場見学に参加し職種や会社等の実態を事前に見学することで、就職試験や面接選考試験への準備と心構えや働くことの意義を学ばせる。
ウ 進学希望者について学習の基礎、基本を大切に、商業科においては、3年間で取得したさまざまな資格を商業科推薦入試に活用し、福祉ボランティア科においては3年間で身につけた専門知識をもとに福祉科推薦入試に活用し、進学をめざす。
エ 小学校、中学校から引き継がれてきたキャリアパスポートを有効に活用しながら進路指導を実施する。
3. 豊かな人間性を育む教育の推進
- 人間尊重の教育に充実を図るとともに、生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばし、社会とその変化に対応し自立できる人材を育成する。
※ 目標：「学校教育自己診断」の生徒肯定率で、「一人ひとりの適性に応じた指導がなされている」が75%以上(R1:61%、R2:63%、R3:78.2%)、「先生は子供の悩みや相談に親身になって応じてくれる」が75%以上(R1:67%、R2:64%、R3:79.5%)をめざす。
ア 教育活動のあらゆる機会を通じて人間尊重の精神と態度を養い豊かな心を育む教育の推進に努める。
イ お互いの個性を尊重し、個性豊かな文化の創造をはかる人材、未来を切り拓く主体性のある人材を育成する。
ウ 部活動や学校行事、生徒会行事を通じて支援学校との校種間連携を実施し、ともに活動することでお互いを尊重する人間性や社会性を身につける。
エ ア、イ、ウの実現のために、「志学」を有効的に教育活動の中に取り入れ、生徒の道徳心や社会性が身につくようすべての教員で取り組む。
4. 社会人基礎力を身につけるための取り組み
- 基本的生活習慣やコンプライアンスを遵守できる社会性・協調性・協働性を兼ね備えた生徒の育成をめざす。
※ 目標：令和4年度には部活動入部率50%以上(R1:38.0%、R2:37.5%、R3:40.7%) 遅刻総数1,000名以下(R1:約1,700名、R2:約1,150名、R3:1296名)をめざす。

府立淀商業高等学校

<p>ア 基本的生活習慣を確立し、規律ある行動ができる社会性豊かな生徒を育成する。</p> <p>イ 部活動を活性化し放課後の時間を有意義に過ごすとともに、生徒一人ひとりが活躍できる場面をつくる。リーダーシップが取れる核となる生徒を育成する。</p> <p>ウ 生徒会活動を活性化し、体育祭、文化祭行事などの体験的活動を充実させる。</p> <p>5. 学校の組織力を向上させるための取組み</p> <p>(1) 学校力向上のための教職員研修の充実</p> <p>ア 教職経験の少ない教員のスキルアップを図るためテーマ別の研修会を開催する。また、授業アンケート結果の分析や管理職による授業観察を実施する。</p> <p>イ 教職員研修を企画し、計画的に実施する。教科横断型の相互授業見学を始め、授業改善に関連して研究授業を実施する。</p> <p>(2) 教職員の働き方改革</p> <p>ア 時間外勤務時間の縮減のため、教職員への啓発と意識改革を図る。</p> <p>イ 業務のスリム化やさまざまな方策による働きやすい職場環境づくりを進める。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 〔令和4年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>【学校満足度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者（項目1）（項目2） <p>教科指導、学校行事等、すべての教育活動を総括した学校の満足度においては生徒「学校生活は楽しい」の肯定的回答率が84%、保護者「子どもは学校生活を楽しくしている」89%で、昨年の生徒74%、保護者84%を上回り、学校全体の教育活動に対する取組みや教職員の教科指導、学校行事の指導、生徒対応への成果が数値として現れた。また、生徒「淀商に入学して満足している」の肯定的回答率が72%、保護者「淀商に入学させて良かったと思う」は91%で、昨年の生徒69%、保護者89%を上回り、特に保護者は高い水準で推移している。来年度は下がることがないよう、時代のニーズにあった教育活動の展開につなげたい。</p> <p>【学習指導について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒（項目3～5）保護者（項目3～4）教員（項目4～5） <p>言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基礎基本となる資質や能力の定着をはかるため、生徒1人1台端末やプロジェクター等ICTを活用した授業、主体的で対話的な深い学習を取り入れ、「わかる授業」「魅力ある授業」の実現をめざした。生徒「授業の内容はわかりやすい」の肯定的回答率が73%で昨年の生徒70%を上回り、保護者「子どもは学校での授業の内容を理解している」は81%で、昨年の保護者向けアンケートと同様の数値を示している。来年度はさらに「わかる授業」に向け工夫を重ね、授業改善に取組みたい。また、今年度からのアンケート項目で、生徒「先生は生徒1人1台端末を効果的に活用している」の肯定的回答率が83%、教員「令和4年度、生徒1人1台端末等、ICTを活用した授業を行った」も83%を示し効果的な授業実践は進んでいる。来年度は前出の生徒の理解度がICT活用度と同等となるようさらに研究を積み重ねたい。生徒「グループでの対話や相談、ディスカッション等を活用する授業が取り入れられている」の肯定的回答率が81%、教員「主体的で対話的な深い学習を授業に取り入れている」は83%で、この授業実践が真の学力の充実につながるよう、継続して取組んでいきたい。</p> <p>【進路指導について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒（項目8～10）保護者（項目7～10）教員（項目11～12） <p>生徒一人ひとりの希望進路の実現に向けて自ら目標を立て挑戦し続ける態度を養い、その過程で培われる自分を取り巻くすべての人に感謝する気持ちや思いやり等、「生きていく」うえで必要な人間性を養うことを目標として生徒の進路指導に当たった。生徒「資格取得に熱心に取り組んでいる」の肯定的回答率が87%、保護者85%を示しており、生徒、保護者とも資格取得については両学科の大きな特徴として、将来の進路や仕事に必要なものと認識し取り組んでいる。また、進路指導に対する学校の姿勢に対する項目では、「一人ひとりの適性に応じた進路指導がなされている」の肯定的回答率が80%、保護者81%。「学科や進路に関する情報が的確に提供されている」は生徒83%、保護者85%で、昨年度、生徒アンケートはそれぞれ79%と86%、保護者は80%と77%で、生徒に1項目減少の数値が見られるが、概ね進路指導には信頼を得ることができている。本年度から実施の教員向けアンケートでは「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」の肯定的回答率が86%、「将来の進路が生き方などについて情報提供したり、生徒に考えさせる指導を行っている」は88%で、進路指導部、3学年担任を中心に生徒の進路について意欲をもって取組み、その成果が生徒や保護者アンケートに反映されている。来年度も引き続き生徒の生き方につながる進路指導をめざしたい。</p> <p>【生徒指導・生徒相談について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒（項目11・12・19・20）保護者（項目11～14）教員（項目13～15） <p>教育活動のあらゆる機会を通じて人間尊重の精神と態度を養い、豊かな心を育む教育の推進に努めてきた。生徒「先生は自分の悩みや相談に親身になって応じてくれる」の肯定的回答率が81%、(R3 79%) 保護者82% (R3 80%)、本年度から実施の項目で生徒「先生はいじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」が84%、保護者82%で、今年度現在までいじめは発生していないが、もし発生した場合にはという観点からするとより高い信頼度へ向けて来年度も取組みを進めていきたい。生徒「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」が89%、保護者86%の回答率があった。外部講師による講習会や教員による日々の対応に生徒、保護者が信頼を寄せていただいております、継続して取組みたい。また、生徒「基本的な生活習慣が確立できている」の肯定的回答率が83% (R3 76%)、保護者85% (R3 79%) で、基本的な生活習慣の確立に意欲を持って取り組む生徒が増加する傾向にある。朝の学級生活委員等の挨拶運動や生活指導部の地道な指導の効果が現れてきており、来年度も指導を継続する。</p> <p>【生徒会指導について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒（項目14・18）保護者（項目15～17）教員（項目10） <p>生徒「学校行事は有意義で楽しい」肯定的回答率86% (R3 76%)、保護者90% (R3 80%) 昨年度数値を生徒、保護者ともに10%の上昇値で、本年度の生徒会活動の取組みについて、非常に高い水準で生徒と保護者が単に楽しいという訳ではなく、自分の将来にとって、生徒会行事での体験は役に立ち有意義なものだと判断している。今年度の生徒を主体とした取組みは全生徒の意欲に大きな変化や成果をもたらした。今年度の生徒会執行部の取組みを来年度以降も引き続き継続することを今後の学校行事へ課題として取組みたい。</p>	<p>(第1回 (令和4年7月28日 (木)))</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校経営計画については商業科・福祉ボランティア科の取組みが非常に多く盛り込まれている。特色ある学科として成果を残していく必要があるが、先生方や生徒の頑張りを期待している。 学校経営推進費事業の「R4 生徒の真の学力を育む淀翔プロジェクト～資格取得だけに留まらない持続可能な社会の創り手をめざして～」については動画を拝見して、取組みの内容が理解できた。教室に設置するプロジェクターや大阪府から配付される1人1台端末を活用した効率的なわかりやすい授業を進めていただきたい。 動画を拝見して商業科の「淀翔モール」や福祉ボランティア科の実習授業への取組みについて、関心を持った。自分たちが学生時代にこのような取組みがあれば、必ず興味を示していたと思う。12月には是非とも足を運びたいと思う。 「淀翔モール」ではレジ袋ではなく、エコバックの活用を推進し、エコバック持参なら、割引するなど、SDGsを意識した活動を行うようにすればよい。生徒が考えた淀商のマスコットキャラクターを入れたエコバックを作成してはどうか。普段も使用してもらえれば淀商の宣伝にもなる。 授業見学週間に教員が相互に授業見学をする取組みは授業研究を深める意味で評価に値する。見学後の先生方の情報交換や教科での取組みにもいかすことができれば、さらに良いものとなり、生徒の学力の向上にもつながる。 生徒の進路については懇談の中で生徒や保護者の意向や学校での状況等を踏まえ綿密な意見交換を行いながら決定にまで至っていただきたい。 令和4年度学校経営計画については、プレゼンテーション形式で映像（動画）を活用しながら、校長より説明を行った。委員からは文字だけの説明では想像しにくい部分もあるが、具体的な取組み内容が把握することができ、内容が十分に理解できた。 ビジネスマナーの一環として、生徒が企業訪問の際には名刺を作り、折衝するなどの取組みもよいのではないかと。また淀商のホームページにリンクする2次元コードをつけるのも良い。 <p>【第2回 (令和4年12月10日 (土))】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回の運営協議会で淀翔モールについて言葉や動画での説明を受けていたが、今日、実際に拝見して、地元住民の方々を含め多数の来校者があり、地域とも連携した良い行事であった。 淀翔モールを見学して、生徒は元気で、明るく良い感じである。店舗ではすばらしい生徒がいた。 「淀翔モール」の日程に無理がある。期末考査終了後の翌日が「淀翔モール」であった。試験期間中に「淀翔モール」の準備をしなければならない、「淀翔モール」のことが気になり、試験勉強に集中できなかったと言っている生徒もいた。 過去の淀翔モール（第1回）の販売商品を比較してみると、バラエティーさがなくなってきた。 また、あまりにも模擬店の食品が多いので、文化的な雰囲気を感じてしまう。 商品の良さをお客さんに説明するなど、コミュニケーション能力を活用しながら、商品を購入していただいた。「淀翔モール」とは、このような実践をする場でもある。 淀商の特徴は、福祉ボランティア科と商業科が併設していることである。福祉ボランティア科は、手がいっぱい商業要素を含めることは難しいと思うが、商業の中に福祉の要素を取り入れて、福祉ビジネスという形で実践することはできる。 商業系の大学の店舗を1つ入れることで高校生の店舗も刺激になるのではないかと。 淀商がいま取り組んでいるメタバースは、子供から目が離せなく、自分の時間がない子育て世代にはとても興味を持っている内容だと思う。 商業の実習としての「淀翔モール」であるため、データを収集し分析する必要があると感じている。金沢商業高校の「金商デパート」を見学したという生徒がいたが私が過去に「金商デパート」を見学したときには、購入するお客さんの年齢や性別、購入時間帯などを随時、数値化し、その分析を行うことで、次年度開催時のマーケティング戦略を立てていた。 スクールミッションについては淀商がめざす学校の目標が網羅されており、承認に値する。 スクールミッションを踏まえた3つのポリシーについて、学校の特徴や取組みをとらえたものをお示しいただくようお願いする。 <p>【第3回 (令和5年2月16日 (木))】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格取得で、特に1級に関しては各コースの生徒が受験する非常に専門性の高い内容になっている。そのため目標値とは乖離した合格率となっているが、簡単に合格できる検定ではないため、それなりに頑張った結果ではないかと思う。 コロナ禍と府への移管の激動の中、学校経営を順調に実施してきたことだけで素晴らしいと思う。 大阪府の商業高校の中で、経済分野を深く学習しているのは淀商の特徴である。 ICT関連の整備が整ったということで、特にプロジェクターを活用し、生徒にとってわかりやすい授業を実施している。今後も、引き続き大いに期待している。 今年度、福祉ボランティア科では、地域の高齢者施設を2つ繋げてゲーム大会を行った。このようなリアルタイム接続はICT技術の特徴をよくいかしているの、引き続き継続して欲しい。また、商業分野でもこのようなリアルタイム接続を活用できる要素は多くある。 コロナ禍でICTに関する取組みに関しては、よく実施されている印象である。このような実践が、次年度につながる素地になると感じている。今後の取組みが楽しみである。 淀翔モールでメタバースを経験したが、生徒のアバターが全員さんサンタクロースの同じ衣装になっていたため混乱した。次回には、せめて帽子の色を変えるなど、ひと工夫をお願いしたい。 いじめについて生徒と教員の意識に乖離がある。生徒にいじめに対する相談体制について周知できればと思う。中学校では、生徒が相談相手の先生を選ぶことができるようなシステムもある。 「教科横断型の授業ができている」の割合が目標値と比較して低くなっている。授業の空いている先生は、少しの時間で他の教科を見学し、自分の授業の改善につなげていただきたい。 18歳成人について、犯罪に対する垣根が低くなった。特に、商業高校では、契約などで騙されない生徒を育成することも、PRポイントではないかと感じる。 遅刻の数がとても多く、コロナ禍の影響もあるのですが、自分はどうすべきなのか、どうあるべきなのかを考え、時間をかけて生徒の意識改革を行うことが必要ではないかを感じる。 部活動について、入部率が低いと思われる。入部率を上げるため、入部しない生徒は、なぜ入部しないのかという理由の把握が必要で、部活動の意義を唱えるなど対策を考えていく必要がある。 コロナ禍により自分自身の意見を発表する機会が減っているが、教員もアウトプットする機会を増やす必要がある。自己表現する機会を増やすことで、教員の力量をあげていただきたい。

府立淀商業高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>生徒の真の学力を育む淀翔プロジェクト 資格取得だけに留まらない持続可能な社会の創り手をめざして</p>	<p>(1) ICTを活用した基本的かつ専門性の高いビジネス教育・介護福祉教育の指導方法の開発</p> <p>(2) 専門的知識や技術をいかして、心豊かな職業観を育む体験的な学習の研究</p> <p>(3) ICT社会・少子高齢化社会に対応した持続可能な社会の創り手を育む教育(ESD)の実践</p>	<p>【専門的知識や技術をいかして、心豊かな職業観を育む体験的な学習の研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT委員会が中心となり、ICT機器やEdtechを活用した授業や指導計画の改善と教員研修を実施(4月～3月) 社会起業家教育先進校に見学および校内報告会を実施(8月・9月) 両学科におけるICTを活用した「ビジネス社会とつながる授業」「地域福祉とつながる授業」を実施 <p>→ICTコンサルタントと連携し、遠隔地(生産・製造現場、介護現場)とインターネットで繋げた実践的な授業の研究・実践(4月～3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> 商業科では、社会起業家による特別授業(年2回以上)および第9回淀翔モール(大規模販売実習)における集客率、顧客満足度、地域貢献度の前年度比120%以上をめざす。 商業科では、ICTコンサルタントの支援を受けてオンラインショップ開設に向けた特別授業を開催(年2回) 福祉ボランティア科では、介護福祉現場に関する知見を強化するため海外産業人材育成協会と連携して外国人介護福祉士候補者との交流授業を実施(10月) 生徒アンケートの実施および連携団体や地域企業、行政などのステークホルダーの評価(2月) 資格取得率、生徒アンケート、ステークホルダーの評価結果を分析し、次年度に向けた検討(3月) 	<p>1. 資格取得率 (1) 商業科では卒業時に流通科学コース全商ビジネス計算実務検定1級、会計科学コース全商簿記検定1級、情報科学コース全商情報処理検定(ビジネス情報部門)1級の取得率をそれぞれ15%以上、2級の取得率を65%以上とする。</p> <p>(2) 福祉ボランティア科では介護職員初任者研修100%、国家資格介護福祉士取得率を95%以上とする。</p> <p>2. 心豊かな職業観を育む体験学習 (1) 生徒アンケートによる「販売実習(介護実習)を通じて、ビジネス(介護福祉)に関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率を60%以上をめざす。</p> <p>3. 持続可能な社会の創り手を育む教育(ESD) (1) 連携団体や地域企業、行政などのステークホルダーによる「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率を60%以上をめざす。</p>	<p>1-(1) ICTを活用した授業を取り入れるなど授業の効率化と指導方法の工夫を試みた結果、全商ビジネス計算実務検定1級86.5%、全商簿記検定1級47.1%、全商情報処理検定(ビジネス情報部門)1級7.9%、2級47.5%、38.8%、47.0%の取得率となった。指導方法の開発を重ね、さらに取得率の向上に努めたい。(△)</p> <p>1-(2) 校内や施設実習での高度な介護技術や補習授業による知識の習得をもとに、介護職員初任者研修100%、国家資格介護福祉士100%を達成した。(◎)</p> <p>2-(1) 淀翔モール、介護実習後の生徒アンケートではそれぞれ70.3%の肯定的回答率があった。生徒育成に大きな活動であり来年度以降も改善と工夫を重ねる魅力につなげたい。(◎)</p> <p>3-(1) 両学科とも地域企業や施設と連携した取組み、授業、実習等を実施した。外部評価アンケートでは「社会的価値がある活動」に対し「とても価値がある活動である」の肯定的回答率が75.0%であった。(◎)</p>
<p>1 質の高い教育を通じて、持続可能な社会の創り手を育む教育(ESD)の推進</p>	<p>(1) 職業教育の充実・働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた人材の育成</p> <p>ア ビジネスに関する専門知識・技術の習得</p> <p>イ 介護福祉に関する専門知識・技術の習得</p> <p>ウ ICTを活用した生徒の主体的な学習の取組み</p> <p>エ① 商業科教育の特色化と魅力化を図る</p>	<p>ア ビジネスに関する各種検定の取得、各コースに応じた専門的知識・技術の習得に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネスマナーを学習し、実践に向けた外部講師による講演を実施するなど、社会人として必要な力を身につけさせる。 各コースにて商業のヒト・モノ・カネ・情報の4分野を専門的に学ばせ、より上級の検定取得に向けて補習等も実施し学習をサポートする。 <p>イ 福祉に関する基本的な知識と技術の習得を図るとともに、最先端の介護知識や技術を兼ね備えた実践力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年次に、介護職として働くうえで基本となる資格である介護職員初任者研修講座を開講し、資格取得をめざす。 3年生の12月から国家試験合格に向けて2班編成による授業や放課後に補習を行う。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し自ら調べ探究する時間を授業内に設定する。 自ら学習し新しい発見を経験することで、学習の意義や理解できた時の喜びを体感させ、主体的な学習へとつなげる。 タブレット端末の録画・再生機能を活用し、視覚的に自らの介護技術を視聴することで、介護技術の向上を図る。 <p>エ①</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校設定科目「アントレプレナーチャレンジ」を通じて、起業、仕入、販売、決算等までの一連のビジネスの流れを学び、大規模販売実習「淀翔モール」を通じてよりよい職業観を育む。 	<p>ア・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次全コース 全商商業経済検定 3級70%合格[R3:75.5%] 全商簿記検定 3級70%合格[R3:60.9%] 全商情報処理検定 3級70%合格[R3:84.2%] 全商珠算・電卓実務検定 3級70%合格[R3:93.1%] ビジネス文書検定 3級70%合格[R3:88.0%] 2年次コミュニケーション科学コース 秘書検定3級70%合格[R3:75.0%] 3年次流通科学コース 全商ビジネス計算実務検定 1級30%合格[R3:60.4%] 3年次会計科学コース 全商簿記検定 2級50%合格[R3:52.0%] 1級20%合格[R3:13.0%] 3年次情報科学コース ビジネス情報部門 全商情報処理検定 2級70%合格[R3:47.5%] 1級10%合格[R3:10.0%] <p>イ・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した発表会を各学年に1回以上実施する。[R3:3回] 介護職員初任者研修取得率100%以上を維持 [R3:100%] 国家資格 介護福祉士合格 95%以上 [R3:100%] 12月中旬から1月下旬にかけて、土曜補習を3回以上実施する。[R3:3回] 生活支援技術の実習において、技術の向上を目標として5項目、5回ずつ合計25回以上タブレットを活用する。[R3:25回] <p>エ①</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートによる「販売実習を通じて、ビジネスに関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率を令和7年度までに75%以上をめざす。 [R3:70.6%] 大規模販売実習「淀翔モール」での来場者アンケートによる「淀翔モールに来年もぜひ来たいと思う」の肯定的回答率を令和7年度までに90%以上をめざす。 [R3:87.1%] 「淀翔モール」での生徒アンケートによる「仲間とともにより良い結果を出すための方法を考え、役割分担して取り組むこ 	<p>ア・ウ 商業科の授業においてICTを活用し授業の効率化や改善をはかりながら、また、教員間での授業研究も実施し指導方法の工夫を積み重ねた結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次全コース(△) 全商商業経済検定3級53.9%合格 全商簿記検定3級77.0%合格 全商情報処理検定3級62.4%合格 全商ビジネス計算実務検定3級58.4%合格 全商ビジネス文書検定3級70.8%合格 2年次コミュニケーション科学コース 秘書検定3級48.4%合格(△) 3年次流通科学コース(◎) 全商ビジネス計算実務検定1級86.5%合格 3年次会計科学コース(○) 全商簿記検定 1級47.1%合格 2級38.8%合格 3年次情報科学コース(△) ビジネス情報部門 全商情報処理検定 1級7.9%合格 2級47.0%合格 <p>年度ごとに合格率の上昇、下降があり、健闘に値する数値であった。また、ICTを活用することで、授業に対する生徒の興味や関心度も高まり、検定の合格率につながった。継続して活用を推進していきたい。</p> <p>イ・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した発表会を各学年で2回実施し合計6回実施(◎) 成果を發揮し介護職員初任者研修取得率100%を維持できた(◎) 国家資格 介護福祉士100%合格(◎) 国家試験合格をめざし土曜補習を4回実施(◎) 技術向上のためにタブレット端末で実習中の様子を録画し振り返りを25回実施した。技術が向上し、施設実習での大きな成果となった。(◎) <p>エ①</p> <ul style="list-style-type: none"> 「販売実習を通じて、ビジネスに関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率が70.8%で令和3年度の数値を上回った。(○) 新たな取組みやイベント数を増加し昨年より入場者数が300人増えた。来場者アンケート「淀翔モールに来年もぜひ来たいと思う」の肯定的回答率89.7%で令和3年度の数値を大きく上回った。(◎) 企業との連携交渉等、店舗の準備を協力しながら行った。「仲間とともにより良い結果を出すための方法を考え、役

府立淀商業高等学校

	<p>エ② 介護福祉の魅力を学ぶ「介護実習」</p>	<p>エ② ・福祉科目「介護実習」では、高齢者施設等での実習を通じて、校内で学んだ知識や技術を統合化し、実践力を高めるとともに、利用者との関わりを通じて介護福祉の魅力やよりよい職業観を育む。</p>	<p>とができた。」の肯定的回答率 70%以上をめざす。[R3:76.8%]</p> <p>エ② ・生徒アンケートによる「介護実習を通じて、介護福祉に関する仕事の魅力を理解することができた」の2年生における肯定的回答率を令和7年度までに70%以上をめざす。[R3:66.7%] ・実習指導者アンケートによる「排泄介助・食事介助・入浴介助の基本的な介護技術を行うことができる。」の肯定的な回答率を3年生で65%以上をめざす。[R3:新型コロナウイルス感染症の影響で実習が未実施]</p>	<p>割分担して取り組むことができた。」の肯定的回答率 86.0% (◎)</p> <p>エ② ・授業で培った介護技術に磨きをかけるため施設実習を実施した。「介護実習を通じて、介護福祉に関する仕事の魅力を理解することができた」の肯定的回答率 69.8% (○) ・実習指導者アンケート「基本的な介護技術を行うことができる。」の肯定的回答率が 60.8%であったが、2年次の実習未実施を鑑みると一定の成果を収めることができた。(△)</p>
<p>(2) ICTを活用して課題探究型学習に取り組み、未来を担う人材を育む教育</p>	<p>ア ソーシャル・アントレプレナー(社会起業家)の育成</p> <p>イ 住み続けられるまちづくりに向けた創り手の育成</p> <p>ウ ICTを活用して学校が「ビジネス」「地域福祉」とつながる教育実践</p>	<p>ア ・令和4年度からの新たな取組みとして、学校設定科目「アントレプレナーチャレンジ」を通じて、持続可能な17の目標(SDGs)から毎年、地域課題に即したテーマを1つ選び、ビジネスを通じて課題解決に向けた課題探究型学習に取り組む。 ・起業家・経営者など外部講師として招き、これからの未来を切拓く社会起業家の重要性を学ぶ。 ・大学教授や中小企業診断士等と連携し、経営アドバイザーとして生徒の活動を助言・評価する仕組みを構築する。</p> <p>イ ・福祉科目「介護実習」では、利用者一人ひとりの心豊かな生活の実現に向けて、国際生活機能分類(ICF)の視点を持った自立支援を資するケアプランの作成を行う。 ・高校での介護福祉の専門性をいかして、高校生が地域住民対象に介護教室または介護予防体操を実践する。 ・令和4年度からの新たな取組みとして、社会福祉協議会と連携して、介護福祉の理解者・応援者を広げる地域福祉活動を実践する。</p> <p>ウ ・生徒が淀翔モールで取り扱う商品知識を向上させるために、Web会議システムを活用して生産者(製造者)の声を聞く機会を設けるなど商品の魅力などをリサーチし、購買者が求めるニーズに対応できる能力を育成する。 ・「withコロナ」に対応するために、Web会議システムを活用した新たな地域福祉活動の実践を行う。</p>	<p>ア ・連携団体や地域企業、行政などのステークホルダー(外部評価)による「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率を令和7年度までに70%以上をめざす。(新規) ・大学教授や中小企業診断士等と年3回以上連携し、経営アドバイザーとして生徒の活動を支援する。[R3:3回] ・生徒アンケートで経営アドバイザーによる助言や評価は今後の活動に役立つの肯定的回答を70%以上とする。(新規)</p> <p>イ ・実習指導者アンケートによる「国際生活機能分類(ICF)の視点を持った自立支援を資するケアプランが作成できる」の肯定的な回答率を3年生で65%以上をめざす。[R3:新型コロナウイルス感染症の影響で実習が未実施] ・地域住民対象に介護教室または介護予防体操を年1回以上実践する。[R3:1回] ・連携団体や実習施設、行政などのステークホルダー(外部評価)による「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率を令和7年度までに70%以上をめざす。(新規)</p> <p>ウ ・商品知識を向上させるために、Web会議システムを活用して生産者(製造者)の声を聞く機会や調べ学習の時間を設ける。 ・「withコロナ」に対応するために、Web会議システムを活用した新たな地域福祉活動の実践を年1回以上行う。[R3:3回]</p>	<p>ア ・地域企業と連携した取組みやそれを元に課題探究型学習を実施した。外部評価アンケートでは「社会的価値がある活動である」の肯定的回答率が75.0%であった。(◎) ・外部講師との連携は日程が合わず2回の実施にとどまった。計画的な進行のもと来年度は実施したい。(△) ・「経営アドバイザーによる助言や評価は今後の活動に役立つ」の肯定的回答率は72.8%であった。(◎)</p> <p>イ ・実習の際には将来を見据え、実習指導者の指導のもと、国際生活機能分類の視点を持った自立支援を資するケアプランの作成も実習として行った。実習指導者アンケートの肯定的回答率68.2%であった。(◎) ・学校施設での介護教室はできなかつたがリモートで施設利用者との介護予防体操を1回実施した。(○) ・施設と連携した取組みを実施した。外部評価「社会的価値がある活動」の肯定的回答率75.0%であった。(◎)</p> <p>ウ ・幾度も事前練習を重ね、リモートで商品製造者と会議を重ね、商品の魅力を熟知することができた。(○) ・介護施設とリモートでつなぎ、利用者との会話や体操をともに行う地域福祉活動を2回実施した。(○)</p>
<p>(3) 特色ある教育活動の幅広い情報発信</p>	<p>ア ホームページ等を活用した最新学校情報の発信</p> <p>イ 介護実習、福祉活動、ボランティア活動を通じた学校作り</p>	<p>ア ・体験入学や学校説明会を実施し、中学生やその保護者からの意見を取入れ、より充実した説明会につなげる。 ・日常の教育活動、学校行事、部活動の活動状況等をホームページに載せ、学校教育活動の情報を数多く発信する。 ・メール配信システムを活用し保護者への学校行事等の活動の情報発信と周知を行う。</p> <p>イ ・福祉現場への即戦力となる人材育成の必要性から、地域連携のもと施設実習を各学年で実施する。 ・地域の福祉施設での活動やボランティア活動を実施し介護知識や技術を深化させる。</p>	<p>ア ・学校説明会累計参加者数650名以上 [R3:600名] ・ホームページの更新回数300回以上 [R3:582回] ・保護者への行事開催メール等の配信回数15回以上 [R3:7回]</p> <p>イ ・施設実習の実施(1年生12日間・2年生20日間・3年生20日間) [R3:新型コロナウイルス感染症対策として施設見学にとどまった] ・ボランティア活動回数5回以上 [R3:新型コロナウイルス感染症対策として絵手紙にとどまった]</p>	<p>ア ・本年度は予定通り5回の実施。累計参加者数は615名であった。(△) ・ホームページの更新回数350回以上アクセス数26155であった。(◎) ・保護者メールの配信回数5回で緊急時だけの配信となった。(△)</p> <p>イ ・施設実習を1年12日間、2年20日間、3年20日間、予定通り実施することができ、生徒の介護福祉に対する興味関心が高まった。(○) ・高齢者施設との介護福祉体操、福祉の日の啓発活動、校外ゴミ収集等、さまざまなボランティア活動を8回行った。(◎)</p>

府立淀商業高等学校

2 確かな学力の育成と取組み	(1) 「わかる授業」「魅力のある授業」の実現	ア 授業改善	ア ・授業力向上をめざし計画的に研究発表授業を実施し、指導力・授業力の向上に取り組む。 ・授業力向上を目的として教科内だけでなく、横断的な授業見学を教職員が相互的に実施する。	ア ・研究発表授業の実施 2教科以上 [R3:2教科] ・授業見学を行った教員 85%以上 [R3:70.5%]	ア ・授業力向上の取組みとして、福祉科商業科、英語科の3教科で研究発表授業を実施した。(◎) ・教科横断型授業見学を行った教員の割合 55.0%、目標を大きく下回った。反省を踏まえ来年度は教職員研修の一環として周知したい。(△) イ ・生徒向け学校教育自己診断の「授業の内容はわかりやすい」の肯定的回答率は 73.3%であった。(◎) ・考査前の補習授業 3回実施 (○)
		イ 基礎学力の充実	イ ・授業のユニバーサルデザイン化を進め、基礎学力の充実に取り組む。また、各科目で理解度が低い生徒については、考査1週間の部活動停止期間を利用し、放課後の補習授業を実施する。	イ ・授業アンケートの生徒肯定率「授業の内容はわかりやすい」70%以上[R3:69.7%] ・考査前には各科目補習授業を3回実施する(新規)	イ ・生徒向け学校教育自己診断の「授業の内容はわかりやすい」の肯定的回答率は 73.3%であった。(◎) ・考査前の補習授業 3回実施 (○)
		ウ 研修活動	ウ ・研修の一環として授業参観を実施し、保護者が参観しやすい環境を整える。 ・授業見学月間(6月、11月)を実施し、教員間の相互評価の充実を図る。 ・教育センター主催で開催される各教科の研修会に参加する。	ウ ・保護者の参観数 100名以上[R3:新型コロナウイルス感染症対策で開催できず] ・全教員を対象に参加者、全教員数以上 [R3:33名] ・研修会への参加 7回以上 [R3:8回]	ウ ・授業参観参加者数 105名(◎) ・授業見学参加者数 31名(△) ・研修会への参加 14回(◎)
エ ICTを活用した授業実践		エ ・ICTを活用したわかりやすく、工夫された授業を1人1台端末を使用し実践する。インターネットにつながった状態での授業など、生徒の興味や関心を引く授業を取入れる。	エ ・教員のICTを活用した授業の実践率 35%以上[R3:33%]	エ ・教員のICTの活用率は 82.5%、昨年度の数値を大幅に上回った。(◎)	
		オ 課題の明確化	オ ・授業アンケートの結果をフィードバックし、課題を分析し、授業改善につなげる。	オ ・生徒による授業アンケートの肯定回答率「(項目8)興味関心」70%以上[R3:70.9%]	オ ・授業アンケートの肯定的回答率 ・「(項目8)興味関心」77.3%、授業改善の成果はあがっている。(◎)
(2) 主体的・対話的で深い学びの実践	ア 思考力・判断力・表現力を身につける	ア ・実習においては自らの判断、提起された問題や課題を解決するための思考力、相手に思っていることを伝えるための表現力を身につける。 ・全教科において、「主体的で対話的な深い学習」やプレゼンテーション、発表などを取入れた学習を実践する。 ・さまざまな形態で学習し、多くの知識や技能を習得するとともに思考力・判断力・表現力を身につける。	ア ・生徒による授業アンケートの肯定回答率「(項目9)知識技能」70%以上 [R3:73.4%]	ア ・新学習指導要領による観点別学習とその評価を常に念頭に置きながら、知識技能を身につける授業実践を行った。結果、授業アンケート「(項目9)知識技能」の肯定回答率 79.1%思考力、判断力、表現力を高めるさまざまな授業方法を研究し、生徒育成につなげたい。(◎)	
		イ 観点別学習による学習意欲の向上	イ ・単に定期試験での点数のみの評価ではなく、観点別学習による学習やレポート、発表等々、生徒の教育活動の成果をさまざまな角度から評価することで、生徒が努力した成果を見える化し、学習意欲の向上につなげる。	イ ・「学校教育自己診断」の生徒肯定率「各教科の評価法(成績のつけ方)について理解している」70%以上[R3:82.2%] ・発表や発表を取り入れた授業を実施した教科の割合を全教科の70%以上とする。(新規)	イ ・生徒向け学校教育自己診断の肯定的回答率「教科の評価法」83.1%(◎) ・生徒向け学校教育自己診断の肯定的回答率「発表等の授業」80.6%(◎)
		ウ 自学自習の習慣の確立	ウ ・授業中に学習したそれぞれの科目の内容を資格取得にいかすため、生徒の自学自習を促し、自分の力で学習しようとする力を深めることができるよう支援する。	ウ ・「学校教育自己診断」の生徒肯定率「学校で学習したことをいかすため、資格取得に熱心に取り組んでいる。」70%以上 [R3:84.4%]	ウ ・生徒向け学校教育自己診断の肯定的回答率「資格取得に熱心に取り組んでいる」が 86.8%であった。(◎)
(3) 希望進路の実現と目標を立て挑戦し続ける態度の育成	ア 希望進路実現のための家庭との連携	ア ・進路希望調査をもとに3年生全員を対象に個別面談を行い、保護者に適切に情報を提供し希望進路の把握に努める。	ア ・進路についての保護者説明会の開催 各学年年間1回以上[R3:2回] ・進路に関する講演会開催 年3回以上 [R3:3回]	ア ・進路情報の提供や共有のため保護者説明会を3回開催した。進路実現への取組みにつながった。(◎) ・進路に関する講演会開催 2回(△)	
		イ 就職希望者への取組み	イ ・就職に必要な情報をHRや教育懇談、就職面談をいかしてリアルタイムに発信する。 ・放課後に履歴書の作成指導や面接練習等を実施し、希望企業への内定をめざす。	イ ・鉄道・公務員就職者向け放課後講座開催 年4回以上[R3:2回] ・面接練習開催 年4回以上[R3:4回] ・就職について、1次内定率65%以上、最終的に100%の内定獲得[R3:1次内定率67.5% 最終内定率100%]	イ ・希望者がなく未開催(-) ・夏季休業前から、ハローワーク、進路指導部、学年が中心となり4回実施、進路実現の支援となった。(○) ・組織的に就職指導を行い、1次内定率75.0%、最終内定率100%(◎)
		ウ 進学希望者への取組み	ウ ・大学・短大・専門学校担当者による進路ガイダンスを実施し、より適切な進学指導を行う。 ・オープンキャンパスへの積極的な参加を奨励する。	ウ ・看護系進学者向け放課後講座開催 年4回以上[R3:4回]	ウ ・看護系専門学校への進学者向け対策の補習講座を4回開催した。(○)
	エ キャリアパスポートの有効活用	エ ・大学入試等を見据えキャリア教育の充実を図ることを目標にしたキャリアパスポートを活用し、進路指導のための環境整備を行い、生徒の自己実現を支援する。	エ ・高校3年間のキャリアガイダンス記録	エ ・毎学期の終業式後のLHRでは学期中の体験や行事について、また、3年生では進路ガイダンス等の内容を記録し整理する作業を取り入れた。(○)	

府立淀商業高等学校

3 豊かな人間性を育む教育の推進	<p>ア 人間尊重の精神と態度を養う。</p> <p>イ 個性の尊重</p> <p>ウ 支援学校との校種間連携を通じた人間性の醸成</p> <p>エ 「志学」の有効的活用</p>	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有を図るとともに、個別の支援を必要とする生徒への包括的な支援体制を充実させる。 ・課題や悩みを抱える生徒の状況把握などに組織的に取り組む。 ・いじめアンケートを各学期1回実施する。 ・人権主担を中心としたいじめ防止対策委員会を開催し、いじめの未然防止に努める。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学校行事、生徒会活動などを通じて支援学校との校種間連携を年間2回以上実施する。 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会活動、各種の講演会、講習会の場面において、「志学」を参考に人権や命の尊さなど道徳的な見地に触れ、豊かな人間性を育む。 	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援会議の開催 1カ月に1回 ・「命の大切さ」講演会の実施 年1回以上[R3:1回] ・いじめ発生件数0件[R3:0件] ・「学校教育自己診断」の生徒肯定率「先生は子供の悩みや相談に親身になって応じてくれる」が65%以上[R3:79.5%] <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会での部活動交流 年1回[R3:1回] ・文化祭での支援学校の生徒の作品展示による交流 年1回[R3:1回] <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各講演会・講習会の各学年での実施 年2回以上[R3:1回] 	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援会議を開催し支援生徒の情報と支援方法について組織で共有できた。10回(○) ・全学年対象で「命の大切さ」について講演会を実施した。1回(○) ・未然防止対策と早期対応により、いじめの発生は0件であった。(○) ・保護者向け学校教育自己診断の「子供の悩みや相談に親身になって応じてくれる」の肯定的回答率80.6%(◎) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚支援学校他との部活動交流や文化交流を1回ずつ行った。(○) <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志学に関連して、生徒向けにSNS、命の問題、拉致問題、健康等にかかる講演会を開催し、人権や支援に関わる問題に触れ、豊かな人間性の育成につなげることができた。2回(○)
4 社会人基礎力を身につけるための	<p>ア 社会性豊かな生徒の育成</p> <p>イ 部活動の活性化</p> <p>ウ 生徒会活動の活性化</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を高めるために「遅刻をしない、時間を守る」「服装髪等の校則を厳守できる」など、基本的な生活習慣を確立する。 ・遅刻の実態調査と原因分析を行うことにより遅刻を減少させ、生活規律を向上させる。 ・「挨拶ができる」「正しい言葉遣いができる」「敬語ができる」など、社会性のある対人関係やコミュニケーションがスムーズに取れる生徒を育成する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生対象の体験入部など、部活動の活性化に向けた取り組みを実施する。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事やボランティア活動など、体験的活動の充実を図るとともに、生徒の自主的な運営を支援する。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における「基本的な生活習慣が確立できている」肯定的回答70%以上[R3:76.5%] ・遅刻者数年間1,000名以下[R3:1,296名] ・学校教育自己診断における「先生や外部からのお客様に対して挨拶ができる」肯定的回答80%以上[R3:91.8%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動への入部率50%以上[R3:40.7%] ・学校教育自己診断における「部活動の取組みに満足している」の肯定率60%以上[R3:81.2%] <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「生徒会活動・委員会活動・HR活動は活発に行われている」における肯定的回答70%以上[R3:76.3%] 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の確立に取り組んだ。生徒向け学校教育自己診断「基本的な生活習慣が確立できている」の肯定的回答率は82.9%であった。(◎) ・年間遅刻数は遅刻の防止を含め指導を実施してきたが、1772名となった。来年度に向け見直しを図りたい(△) ・生徒向け学校教育自己診断「挨拶ができる」の肯定的回答率93.8%(◎) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入部率37.8%(△) ・少ない入部率でありながらも「部活動の取組みに満足している」の肯定的回答率87.6%(◎) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動への取組みに対して、生徒向け学校教育自己診断「生徒会活動・委員会活動・HR活動は活発に行われている」の肯定的回答率89.7%(◎)
5 学校の組織力の向上	<p>(1) 教職員研修の充実</p> <p>ア 教職経験の少ない教員のスキルアップ</p> <p>イ 教職員研修の実施</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職経験3年目までの教員を対象とした研修を実施し、若手教員の資質向上を図る。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練とともに安全点検(学期終了時)や救急処置講習会等を実施し、防災安全に努める。 ・各種の教職員研修を計画的に実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員人権研修 ・体罰、暴力行為等防止研修 ・教職員コンプライアンス研修 ・特別支援に関する研修会 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年目研修の各学期1回以上の実施[R3:1学期1回、2学期1回、3学期1回] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練年2回、救急処置講習会実施年1回以上[R3:防災訓練2回、救急処置1回] ・教職員人権研修実施年2回以上[R3:2回] ・体罰、暴力行為等防止研修の実施年2回以上[R3:2回] ・教職員コンプライアンス研修を開催年1回以上[R3:33名](R3:1回) ・特別支援に関する研修会や連絡協議会の開催 各学期1回以上[R3:33名](R3:1学期1回、2学期1回、3学期1回) 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業観察やその後の指導、助言、会議内での言葉がけ等を研修の一環として実施した。[R4:1学期1回、2学期1回、3学期1回(○)] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の安全性や危機管理、防災に関する講習会や行事について意欲的に実施した。来年度も避難訓練に関して綿密な計画のもと実施し、生徒や教職員にさらに危機意識を持って行動することを指導したい。 ・防災訓練2回、救急処置1回実施(○) ・教職員人権研修2回実施(○) ・体罰等防止研修2回実施(○) ・コンプライアンス研修3回実施(◎) ・特別支援会議3回実施 参加人数は平均35名の参加(○)
	<p>(2) 教職員の働き方改革</p> <p>ア 時間外勤務の縮減</p> <p>イ 働きやすい職場環境作り</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中の学校閉庁日を活用し、また、部活動において週に1～2回の休養日を設定することで、時間外勤務の縮減を図る。 ・時間外勤務対象者の状況を常に把握し、身体的・精神的な負担度の確認に努める。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職の巡回や教職員からの報告により施設設備面での破損・故障箇所を把握し安全で働きやすい職場環境づくりをめざす。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1か月の在校等時間60時間以内の教員数9割以上[R3:33名](R3:84%(40/47名)) ・管理職による状況把握(R3:100%[R3:3名](7/7名)) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職の校内巡回1日1回以上実施 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日を「ゆとりの日」として定め解消に努めたが、在校等時間60時間以内の教員数41名、82.0%(41/50名)(△) ・管理職による1カ月60時間以上勤務者の状況把握100%(6/6名)(○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初から1日1回校内巡視を実施し、学校内の状況把握に努めた。授業観察時期は複数回、巡回を行った。(◎)